

# 子どもがめあてを持って取り組む社会科学習のあり方

— 鎌倉の現地調査を取り入れた社会科の体験的な学習 —

足利市立毛野南小学校 秋山年克

## ○はじめに

小学校社会科の中で、「体験を通して学ぶ」ということは、子どもたちの興味・関心を高めるばかりでなく、社会的なものの見方・考え方を養う上でも大変重要である。ちょっとした見学などでも、子どもたちは我々教師が期待する以上のものをつかんでくることが多い。体験的な学習の機会が多く設けられるのは社会科の一つの財産であるといえよう。

## I 研究のねらい

6年生が学ぶ歴史の中でも、もちろん体験的な学習は重視されている。だが、子どもたちが直接的に歴史に触れる事は不可能である。あくまでも史実は史実として存在しているわけであるから、子どもたちはそれを「社会的な思考・判断力」を媒体として間接的に捉えなければならないのである。

それでは、具体的にどのような機会を捉えて、歴史の勉強の中で体験的な学習を行っていったらよいのか。歴史的な遺物・遺産の豊富な土地であれば、即座に見学もできるであろうが、そのようなことはむしろまれである。すると、どうしても限られた単元の中でそうした学習を位置づけていく必要がある。幸い、修学旅行が鎌倉方面で、しかも、足利市は鎌倉市と姉妹都市の関係にあり、歴史上の結びつきも深い。同じ体験をするならば、この利点を大いに生かして、より密度の濃い学習をさせたいと考えた。そのためには、従来のような指定されたものを見て回る修学旅行ではなく、子どもたちが自らの興味・関心に沿って、見学場所を設定できるような形に改善していく必要がでてきた。この実践記録は、そのような考えを踏まえた一つの事例である。

## II 研究の実際

### (1) 小単元の設定について

小単元「武士が力を持ってきた世の中（鎌倉時代）」を、体験的な学習を含めて以下のように設定した。

#### ア 小単元の目標

- ・足利市と鎌倉市の、歴史的な関わりについて関心を持ち、それらを意欲的に調べようとする。
- ・鎌倉の遺跡や文化に触れ、現地での実地調査に積極的に関わろうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・武士の政治の基礎を築いた足利義兼や源頼朝の生き方・考え方について自分なりの考えを持つ。
- ・鎌倉幕府が滅んだ後の、武士の政治の変化について考える。 (思考・判断)
- ・源氏と平氏の戦いの様子や、その戦いに足利氏がどのように関わったかなどを資料を通して調べる。
- ・武士と御家人の関係を、教科書の資料などから調べる。
- ・鎌倉の歴史や足利氏との関わりなどについて、調査したことをまとめ、多様な方法で表現する。

(観察・資料活用・表現)

- ・源頼朝が鎌倉に幕府を開き、封建的な武士の世の中を築いたことがわかる。
- ・幕府と御家人は、御恩と奉公の関係で結ばれていたことがわかる。 (知識・理解)

#### イ 小単元について

本小単元は学習指導要領の第6学年の目標(1)「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れ

た文化遺産について関心と理解を深めるようにし、我が国の歴史や伝統を大切にする心情を育てる。」を踏まえ、内容の(1)オ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどについて調べて、武士が勢力をもつに至った頃の様子について理解すること」の上に設定されたものである。

鎌倉幕府の設立は武家社会の始まりであり、武士の政治の基礎となる「主従関係」はこの時代に確立された。もちろん、その確立のためには、源頼朝をはじめとする数々の先人たちの努力があったからに他ならない。まず、本小単元ではそうした人たちの生き方・考え方につれて直接触れ、共感的に捉えさせていく必要があると思われる。そして、残された文化遺産から、この時代に生きた人々の文化や生活についても考えていくようにさせたい。

また、鎌倉幕府と足利氏との関係についても、本小単元で捉えさせたいことの一つになる。自分たちの生まれ育った土地が、鎌倉という歴史的に重要な地と密接な関係にあることを知れば、自ずと学習への関心は高まるであろうし、郷土への誇りを持つことができるはずである。こうした学習が、我が国の歴史や伝統を大切にしていく心情を育てることにつながっていくのである。

#### ウ 小単元の指導計画

	追及過程のねらい	学習内容・活動	到達度の目安	時間
つかむ	○貴族に代わって、武士が政治の実権を持つようになり、その政治の中心となった鎌倉の地に、興味・関心を持たせる。	①鎌倉の大仏について知り、大仏を描く計画を立てる。 ②鎌倉の大仏を描き、このような巨大な大仏が鎌倉の地に存在している理由を考え、鎌倉時代について問題意識を持つ。	・鎌倉時代について自分なりの学習問題を設定する。 (関・意・態)	2
調べる	○源平の戦いや源頼朝が開いた鎌倉幕府のしくみなどを調べ、武士の世の中が確立していったころの様子がわかる。	①源頼朝の人物像に触れ、頼朝の考え方や業績について調べる。また、足利氏との関係についても調べる。 ②鎌倉幕府の政治のしくみを調べる。 ・いざ鎌倉 ・御恩と奉公 ③元との戦いの様子や、その後の幕府の衰えの様子を調べる。	・源頼朝の人物像を自分なりに描き、その政治や鎌倉幕府の封建的な支配体制について調べることができる。 (観・資・表)	3
たかめる	○各自の学習問題について、さらに深く追究していくための実地調査を行い、鎌倉時代の文化遺産などに触れさせる。	①教科書や資料から調べたことを確認したり、学習の問題についてさらに深く追究したりするために鎌倉実地調査の計画を立てる。 ②自分たちで計画したことをもとに、グループ毎で鎌倉の実地調査を行う。	・調査の視点を念頭において、調査活動に主体的に関わることができる。 (関・意・態)	3
まとめる	○調べて考えたことを振り返り、多様な表現方法でまとめさせ、鎌倉時代について自分なりの考えを持たせる。	①実地調査で明らかになったことを、既習事項と関連づけながら多様な表現方法でまとめ、発表する。 ・新聞 ・紙芝居 ・OHP ②学習を振り返り、鎌倉時代について自分なりの考えを持つ。	・多様な表現活動を通して学習を振り返り、武士の世の中にについての感想を持つことができる。 (表現) (思考・判断)	2

## (2) 児童の実態

### ア 事前の実態調査及び結果

前小単元「天皇と貴族の世の中」を終えた後、修学旅行の日程説明などと平行して、社会科への興味関心・生活・学習経験・学習形態・表現形態などの項目について、診断的な評価を行った。

#### 〈診断的評価の一例〉

##### 1 歴史学習に関心があるか。

あ る 63%	どちらでもな い 23%	な い 14%
---------------	--------------------	---------------

##### 2 鎌倉に行ったことがあるか。

ある 15%	な い 85%
-----------	---------------

##### 3 源頼朝を知っているか。

知っている 58%	知らない 42%
--------------	-------------

##### 4 足利義兼を知っているか。

知つ て いる 13%	知ら な い 87%
----------------------	---------------------

##### 5 鎌倉時代について知っていること。

- ・武士の時代であった。 ..... 5名
- ・大仏が造られた。 ..... 3名
- ・源頼朝が活躍した。 ..... 9名
- ・源氏と平氏の戦いがあった。 ..... 2名
- ・鎌倉に幕府がおかれた。 ..... 1名

### イ 考 察

実態調査から、歴史学習への関心は思ったほど高くないことがわかった。遺跡・古墳の見学や多様な表現活動を行った結果としては意外であったが、そうした学習のねらいが子どもの実態に即していなかったのであろう。鎌倉時代のことについては、多少の予備知識があることがわかるが、源頼朝という名前は知っているのにそれが鎌倉時代の人物であることを指摘できた子は少なかった。鎌倉を訪ねた子もそこが歴史的に重要な土地であるという認識を持つまでには至らなかったようである。また、足利との関連について気づいた子は皆無であった。

次に、学習形態においては、圧倒的にグループ活動を支持する子が多いのも特徴である。自分の課題が明確にできないときや、調べる活動において、友達と相談する機会が多く得られるからであろう。発表においては、紙芝居や劇などを用いるグループもあったので、多様な表現活動を展開させて、自分なりのまとめ方を工夫させたい。

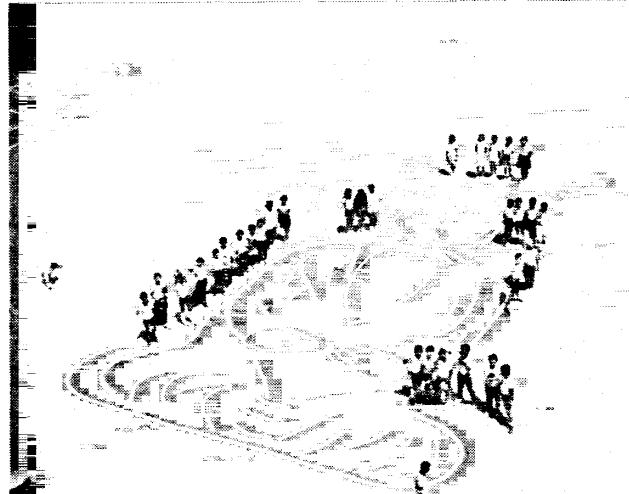
### (3) 指導の実際

#### ア 大仏を描く

学習活動	教師の支援	児童の反応
1 鎌倉で有名なものについて知る。	・鎌倉市の紹介ビデオを観賞し、関心を高める。	・鎌倉市が足利市と姉妹都市であることを知り、関心を持って観ていた。特に大仏には「大きい」という声が上がった。
2 「鎌倉の大仏」について調べる。	・大仏の口（実物大）を提示し、その他の部分の大きさについても調べてみようという意欲を喚起する。	・大仏の口を提示したことは効果があった。「手の大きさは」「足の大きさは」など、質問があった。そこで、自分たちで資料を使って調べることになった。
3 大仏の設計図を描く。	・グループごとに描かせ、協力するよう働きかける。 ・大きさが提示されていない箇所について助言する。	・パンフレットの写真などを参考に詳しく描いているグループが目立った。
4 設計図をもとにして、実物大の大仏を描く。	・校庭にライン引きを使って描けるようにする。作業等は分担してスムースに行えるよう配慮する。	・平面的に描くだけでも相当大変な作業であることを認識できた。そして、なぜこのような大仏が奈良ばかりでなく、鎌倉にもあるのか、疑問を抱いたようである。
5 学習の感想を書く。	・新たに生じた疑問・さらに詳しく調べたいことなどを検討する。	・鎌倉の大仏が造られるまでの背景や、その過程などについて詳しく調べたいという感想が目立った。

#### 〈考察〉

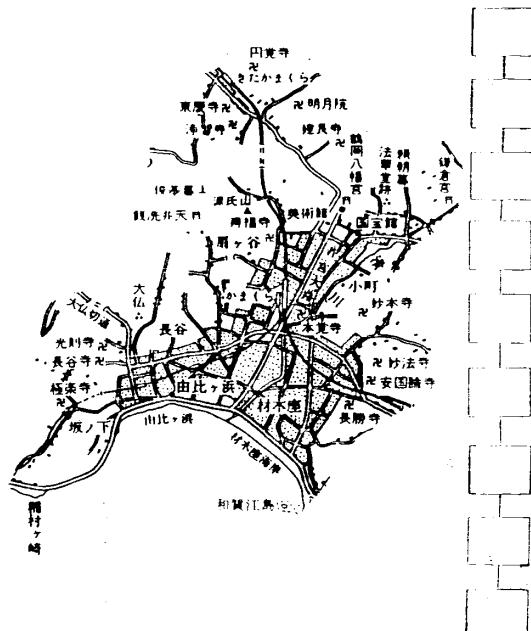
本時は、導入の段階でいかに鎌倉について関心を持たせるかがねらいであった。大仏造りについては、「奈良の大仏」すでに学習済みだが、鎌倉大仏建立の歴史的背景には、武士の権力の象徴というものがある。そうした文化遺産が存在する鎌倉が、武士の政治の発祥の地であることを理解させることで、さらに詳しく調べてみようという意欲が高まつていった。また、大仏の実物大の平面図から当時の人々の努力や業績を感じとることができたようである。「武家社会の成立」という単元の導入としてはやや不適切な面もあったが、子どもたちが自分なりの考えを持って取り組める学習であった。



## イ 調査計画をたてる

学習活動	教師の支援	児童の反応
1 グループごとに、調査場所を選定する。	・パンフレット・地図帳など、様々な資料を用意できるよう配慮する。	・調査場所の選定はかなり難航した。調査の時間が限定されており、しかも各自の希望が多かったためである。
2 話し合ったことをもとに計画書を作成する。	・見学のコース・調査の観点などについて、明記できるようする。 ・見学の範囲を越えている計画については教師と相談の上、決定するよう助言する。	・計画書作成には時間を要した。特にポイントからポイントへの移動手段について迷っているグループが多かった。電車の時刻が合わない場合は歩くで散策するよう、二段構えの計画を立てているところもあった。
3 調査してくる内容について、各自再度確認を行う。	・調査の内容があまり具体的でないものについて、再度検討するよう助言する。	

## 鎌倉市の実地調査をしよう



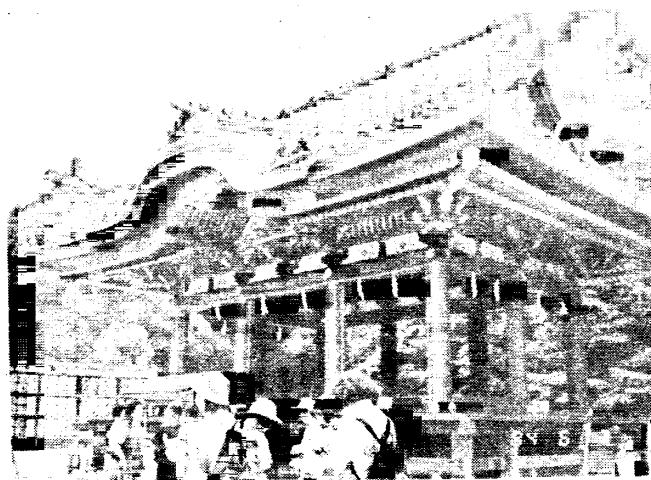
鎌倉実地調査活動計画					
1 章	2 章	3 章	4 章	5 章	6 章
大仏 11:30～11:50 風鈴	大仏 11:00～11:20 風鈴	大仏 11:10 11:00～30分間	大仏 11:00～30分間 鎌倉駅 12:25発	大仏 11:15～11:30 長谷寺へ 11:35～11:55	大仏見学 11:00～11:20 鎌倉駅へ 11:35～11:55
長谷駅 11:20～11:40 かまくら	長谷駅 11:20～11:40 かまくら	光則寺 11:45 鎌倉駅 12:25発	光則寺 11:45 鎌倉駅 12:25発	長谷駅 12:05～12:10 鎌倉駅 12:40～12:45	長谷駅 11:45～11:55 鎌倉駅 12:45～12:50
さざなみ 11:40～11:55 かまくら	さざなみ 11:34～12:00 かまくら	法華堂 11:34～12:00 北鎌倉駅 20分間	法華堂 11:34～12:00 北鎌倉駅 20分間	門見寺 12:25～12:40 鎌倉駅 12:50～12:55	門見寺 12:30～12:45 鎌倉駅 12:55～12:58
大仏 11:55～12:10 北鎌倉駅	大仏 11:55～12:10 北鎌倉駅	光明院 12:30～12:45 鎌倉駅 13:15発	光明院 12:30～12:45 鎌倉駅 13:15発	光明院 12:50～13:05 鎌倉駅 13:45～13:50	光明院 12:55～12:58 鎌倉駅 13:50～13:55
法華堂 11:55～12:10 北鎌倉駅	法華堂 11:55～12:10 北鎌倉駅	光明院 12:50～13:05 鎌倉駅 13:45～13:50	光明院 12:50～13:05 鎌倉駅 13:45～13:50	光明院 12:55～13:05 鎌倉駅 13:50～13:55	
光明院 12:55～13:10 鎌倉駅					
光明院 12:55～13:10 鎌倉駅					
光明院 12:55～13:10 鎌倉駅					
光明院 12:55～13:10 鎌倉駅					
光明院 12:55～13:10 鎌倉駅					

### 〈考 察〉

グループによっては、時間内に計画がたてられず、放課後などに悪戦苦闘しているところもあったが、計画書が完成したときには、子どもたちは十分な満足感を得たようである。調査項目については、個人個別で設定し、自力で解決してくるよう再度示唆を与えた。授業で扱ったせいか、大仏・頼朝の墓・鶴岡八幡宮に関心が集まつたが、中には趣のある北鎌倉方面を選択したグループもあった。調査項目については「鎌倉時代の文化について調べたい。」「鎌倉幕府に関する文化遺産などについて調べたい。」「足利と鎌倉のつながりに関するものを調べたい。」などの意見がみられた。細かいところでは、「奈良の大仏と鎌倉の大仏の相違点」や「鎌阿寺と建長寺には関わりがあるか。」などの項目もあり、学習したことをこの調査によってさらに深めていこうとする姿勢がうかがえた。

### ウ 実地調査の様子

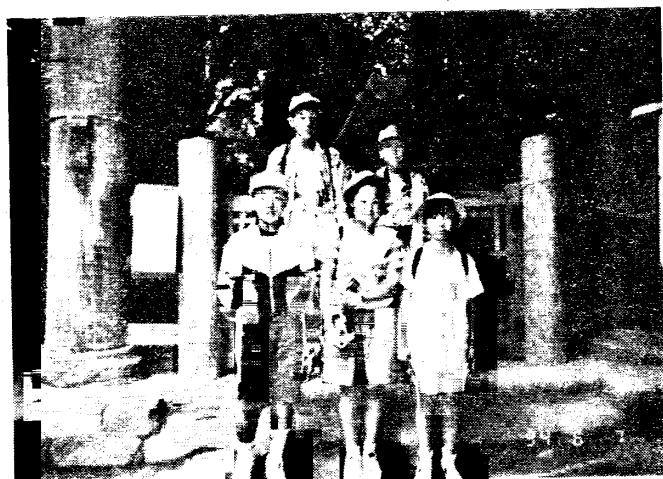
大仏前でバスを下車してグループ行動となる。多くのグループは大仏参観後長谷駅へと向かう。第1チェックポイントの長谷駅ではどのグループも計画した時刻通りに乗車することができた。修学旅行シーズンも重なってどのポイントもかなりの人出であり、子どもたちはメモ用紙は手にしているものの、記録するまでの余裕がなかったようである。カメラを持ってきた子は、写真撮影に余念がなかった。インタビューという方法も考えられたが、残念ながらそれを行ったグループはなかった。北鎌倉方面を選択したグループは、観光客も比較的少なく、実地調査に専念できたようである。最終的にどのグループも予定時間内に見学を終えることができ、子どもたちの顔に充実感と安堵の色がうかがえた。



←鶴岡八幡宮での調査活動

→グループ活動の様子

(円覚寺にて)



## エ 学習のまとめ

学習活動	教師の支援	児童の反応
1 調査してきたことをまとめる方法を考える。	・自分なりの方法でまとめられるよう示唆を与える。	「社説等を入れて、新聞にしたい。」「紙芝居で発表したい。」「OHPで発表したい。」「自作のパンフレットを作りたい。」
2 各自考えた方法でまとめる。	・調査したことを羅列するのではなく、テーマを設けてまとめられるよう助言する。	・新聞 ..... 12名 ・紙芝居 ..... 18名 ・OHP ..... 6名 ・パンフレット ..... 4名
3 自作の資料を使って発表会をする。	・調査を行って感じたこと考えたことなども述べられるようにしたい。 ・発表についての感想を聞き、学び合いの場を設定したい。	「頼朝が鶴岡八幡宮・若宮大路を造って信仰のよりどころとしていたことがわかった。」「鎌倉には禅宗の寺が多く、それが武士の時代を反映していた。」「鎌倉の大仏について、新しいことが発見できた。」
4 学習の感想を書く。	・本小単元の学習を終えて感じたことを書けるようにする。	・「自分で見学したり、調査したりできただったことがよかった。」という感想が目立った。

### 〈考 察〉

まとめる段階では、各自の表現能力を養うことをねらいとして、自分なりのまとめ方を考えさせた。子どもたちには、見栄えよりも、今回の調査を効果的にまとめられる方法が最良であることを補説して、まとめ方を考えさせた。その、上記の表に掲げられているものが出でてきたわけである。中でも、パンフレットという新しい発想は、今回の調査を行うにあたって子どもたちが身近なものの中から資料を収集した結果出でたものであると思われる。また、今までのまとめる学習では、調べたことをすべて網羅しようとして、自分が設定した学習の問題からそれてしまうような子が多かったので、今回は学習の問題に直結したテーマにそってまとめていくよう配慮した。その、紙芝居にはストーリー性が生まれ、新聞には社説欄などの自分の考えを述べた記事が多くなったのも事実である。ただ、さすがに時間的な問題や、まとめた内容の類似などから、全員に発表させることができなかつた。それは、調べる段階とまとめる段階で、学習の形態が異なってしまった（調べる段階はグループ、まとめる段階は個人・グループ）のが原因であろう。時間的なことを考えれば、まとめもグループで行った方がよかつたか。学習後の感想から、普段はこうした学習の機会の少ない子どもたちが、自分の問題を自分の力で解決できた、という成就感を持ったことがわかつた。また、調査した歴史的事象から自分なりの考えを導こうという子が、少しではあるが増えてきたようにも思われた。

## 児童の作品例

大仏を描く（第1・2時）

### 鎌倉の大仏をかいて

吉住直子

社会の時間に鎌倉の大仏について学習した。その大仏の大ささを直接自分の目で見るために、校庭に大仏をかくことにした。前日まで、全体の大ささや耳の人さなどを調べたりした。私はちゃんとかけるから配ぱはってきた。

そして当日、まず、長さをはかり、トントンの形をかいた。みんなどうや、たらいいか分からなくて、とまどっていた。このままで大仏が完成できるのかと不安になら、たゞうしていろいろに想像したりしながら行動し始め、完成へと近づいた。みんなが協力して、大仏が完成した。その大仏を屋上から見て、私の思っていた大仏より大きいのでびっくりした。みんなで協力してよかったと思ふ。

### 校庭にかいた大仏

山崎記代

大仏が大きいということは分かっていたけれど、その大きさを自分の目で見るために校庭に大仏をかくことにむけた。最初はみんな、とまどっていたけれど、だんだん協力し始めた。1人1人が1つずつ仕事を受け持って、能率よくやったからこそ、大仏が完成したのだと思う。

その大仏を屋上から見て、思っていたよりも大きくて、昔の人はよくこんな大きい大仏を作れたなあと感心した。少ししたいへんだったけれど、かいてみてよかったです。

パンフレット作り（第9時）

### 鎌倉

**鎌倉の大仏**  
大仏に屋根がないのが不思議だったが、津波で流されてしまったことがわかった。この大仏は、源頼朝におくり物として、わざわざ贈られたそうだ。頼朝の力は、本当にすごかったんだなあ。  
とにかく大きい！！

**長谷寺**  
長谷觀音という大きな觀音様がある。ここから、由比ヶ浜の海岸がよく見える。おぼろしい景色には感動した。

### 鶴岡八幡宮

ここには、源氏の守り神が土埋めているそうだ。鎌倉の武士たちは、ここに来て、どんなことを祈ったのだろうか。門から社殿までが、とても長いので、大いへんだった。

### 若宮大路

この道は、八幡宮に参拝するためになぞらえた道だ。今でもたくさん的人がここで通っていた。平城京や平安京も同じづくりをしていた。頼朝は貴族のまねをしたかったのだろうか？

### 源頼朝 鎌倉のじゆうち

鎌倉といえば、頼朝。武士の政治をはじめた人として有名。墓も大きいんだろうと思っていてが、あまりそうでもなかった。でも、今でも線香やお花が供えてあるのは、やはりヒーローなんだなあ。

**源義経**  
義経に関係したものは、鎌倉にはほとんどない。平氏との戦いで活躍したのに、ちょっとかわいそうな気がした。

## 学習感想（第10時）

ぼくは自由行動でさしあがく、大仏を見た。そこも大きくてある。中には、大きな仏像があり、大きめの江戸の門があった。それにも、月に、月陰をみて、小町通りへ入った。そこへ、長谷寺へ一歩見て回った。おみやげを選んで、とても喜んでいた。

この自由行動で鎌倉の歴史をもう、とも、とくわしく調べたりと思つた。黒田義典

川出 貨理誠

私は鎌倉の自由行動で大仏をスタートに出发しました。そこには、大きな仏像があり、大きめの江戸の門がありました。それにも、月に、月陰をみて、小町通りへ入った。そこへ、長谷寺へ一歩見て回った。おみやげを選んで、とても喜んでいた。

この自由行動で鎌倉の歴史をもう、とも、とくわしく調べたりと思つた。黒田義典

私は鎌倉の自由行動で大仏を想像するより大きくなり、色んな物で作られた。それは昔に建てるような、大きな木造の建物でした。そこには、一人一人が、自分の手で作った物が、一つ一つありました。そのままで、そのまま見守っていました。私は鎌倉の自由行動で大仏を想像するよりも、実際に見ると、想像以上に大きくて、とても驚きました。

この自由行動で鎌倉の歴史をもう、とも、とくわしく調べたりと思つた。黒田義典

私は鎌倉の自由行動で大仏を想像するよりも、実際に見ると、想像以上に大きくて、とても驚きました。

### III 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究で明らかになったこと

- 各自が学習問題を設定し、その解決に向けてさまざまな事象を調べていくことによって、それらを統合して大きな事象についての社会的な見方が育っていく。
- 調べる段階で、効果的に資料を活用していくことによって、その後の実地調査にも大きな影響を与える。
- 図書室や県立図書館を利用して、資料収集の活動範囲を広げ、各自の問題解決に主体的に取り組もうとする姿勢が見られた。
- 体験的な学習活動である鎌倉の実地調査は、従来の見学場所が設定された修学旅行の質を大きく変えた。子どもたちの期待感が高まり、修学旅行の意義が十分に果たされた。

#### (2) 問題点

- 活動計画・実地調査にかなりの時間を要するため、学習指導要領の内容に関わる指導がやや不十分になる傾向にあった。（将軍と御家人の関係・北条氏の政治などについて。）
- 足利の歴史についての理解が不十分であり、鎌倉時代と関わりを持たせながらそれらを調べていくのは子どもたちの力だけでは無理があった。

#### (3) 今後の課題

- 問題点でも指摘したように、活動計画・実地調査に多くの時間を費やした。実際、先に掲げた指導計画の時数では、本小単元のねらいを達成することは困難であると思われる。そうなると指導計画の時数を増やすねばならないが、他の単元との関係上それも難しい。むしろ発展的な学習と考えて学級活動などとからませながら、指導していった方がよいのではないだろうか。
- 今回の実地調査のような活動の方法を、一度や二度の実施で子どもたちが把握できるとは思われなれない。「自分で問題を捉え、調査し、まとめる」活動は社会科ばかりに限られたことではないので、こうした方法が他の教科にも反映していくことを望んでいる。なぜなら、子どもの発達は、彼らの自己活動によってこそ可能である、ということを感じるとことができたからである。

## 評

社会科の授業においては、子供一人一人が主体的に学習に取り組み、自分なりの社会的なものの見方や考え方を身に付けることができるようになることが大切である。

そのためには、問題解決的な学習や体験的な活動を組み入れ、子供たちが社会的事象と進んでかかわりながら社会的なものの見方や考え方を身に付けていくことができるよう授業を工夫改善する必要がある。特に体験的な学習活動については、学習指導要領の「総則」にも示されているように、全教育活動を通して重視されている。

本研究は、このような課題を受けての研究実践であり、次のような特色がみられる。

1. 学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえて、教師自身の今までの指導の在り方を振り返り、実践を通して指導方法の改善を図ろうと試みたものである。子供たちの興味・関心を高めながら、社会的なものの見方や考え方を身に付けるために、学校行事（修学旅行）とからませながら現地調査を取り入れ、あわせて学校行事の意義を深め、質的な改善に取り組まれた。
2. 指導計画の中に、鎌倉での現地調査をはじめとし、大仏を描く活動や多様な表現方法にまとめる活動などを位置づけ、実践研究をされた。

大仏を描く活動を学習問題を見つける過程に位置づけたことによって、児童は自分なりの問題を見いだし、その後の学習に対する関心や意欲を高めている。また、鎌倉での現地調査については、事前に児童に調査項目を明確にし、調査計画をしっかりと立てさせ、効果的に調査ができるようにしている。学習のまとめでの表現活動については、児童自身が自らの表現方法を選択し、児童一人一人の好みが生かされるように配慮しながら表現力を育てようとしている。

社会科において、体験的な学習活動を組み入れることによって、児童は自らのよさや可能性を一層発揮するとともに、知識を自分なりに獲得していくようになる。また、社会事象と進んでかかわり、それらの社会的な意味を自分なりの理解や解釈の仕方で学びとるようになる。本研究は、このような点で大いに参考になると思われる。

今後とも研究を継続され、実践を積み重ねて更に研究が深められることを期待する。